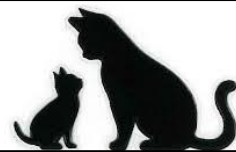




体験入学のお知らせ



北海道札幌東商業高等学校(公立)

(札幌市厚別区厚別中央3条5丁目6-10)



<体験入学>

□日時／9月6日(土) 13:00~16:30 (受付 12:15~12:55)
第2回 9月20日(土) 10:00~11:50 (9:30 受付開始)

□場所／本 校

□対象／今年度卒業予定の中学3年生とその保護者

□内容 ①12:15~12:55 受付
②13:00~14:00 学校紹介・在校生トークライブ・学校紹介ビデオ
③14:00~14:20 校舎見学
④14:30~15:20 学科別体験学習(4学科中から申込時に選択)
⑤15:20~16:00 部活動見学(希望者のみ)

□申込み期間／7月15日(火)~8月29日(金)

□申込み方法／本校 HP の「中学生の皆さんへ」→「体験入学」→登録フォーム

杉原千畝(すぎはら ちうね)の進路選択

杉原千畝は、日本の外交官として知られていますが、その進路選択には強い信念と決断力が表れています。彼の人生を振り返ると、困難な状況の中で人道的な選択をしたことが、彼の生き方を決定づけたことがわかります。

杉原は幼少期から学業優秀で、両親は彼を医者にすることを望んでいました。しかし、彼自身は医学に興味をもてず、医学専門学校の入学試験では解答用紙を白紙で提出し、不合格となることで親の期待を断念させようとしてしました。この行動が父に知られ、家を追い出されることになりました。

その後、杉原は東京に移り、早稲田大学高等師範部英語科に入学しました。学費や生活費の援助を受けられず苦しい生活を送っていた彼は、偶然、外務省の官費留学生(政府の負担で留学する学生)の募集広告を目にし、必死に勉強して合格しました。ここでロシア語を学び、その努力が認められ、外務省の一員となります。

外交官としてのキャリアを積んだ杉原は、リトアニアの領事館に赴任しました。第二次世界大戦中、ナチス・ドイツの迫害から逃れたユダヤ人たちが日本通過ビザを求めて領事館に押し寄せました。日本政府・外務省の指示に反する決断を迫られた杉原は、命の危険をかえりみず、独断でビザを発給し続けました。この決断により、約 6000 人ものユダヤ人の命が救われたのです。

戦後、杉原は外務省を退職し、長らくその功績が認められませんでした。しかし、後にイスラエル政府から「諸国民の中の正義の人」として表彰され、世界的にその勇気ある決断が称えられるようになりました。

杉原千畝の進路選択は、単なる職業選択ではなく、信念に基づいた決断の連続でした。彼の生き方は、現代に生きる私たちにとっても、多くの示唆を与えてくれるものです。彼の勇気ある選択から、私たちも自らの進路を考えるヒントを得ることができるでしょう。

